

無料

すくらむ

かわさきの男女共同参画情報誌

国際女性デー 3.8

kawasaki



vol.

74

2023.3

<https://www.scrum21.or.jp/>

国際女性デーに寄せて

かわさきで暮らすわたしたち

国際女性デーに寄せて

かわさきで暮らすわたしたち

3月8日は国際女性デーです。3月8日前後には世界各国で女性を中心として記念行事やイベント、デモなどが行われています。国連では毎年国際女性デーのテーマを発表しており、2023年は「ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」をテーマに各国で男女共同参画の実現に向けて取り組みが進められています。

今号では、これまですくらむ21の様々な事業にご協力をいただいた皆様より、国際女性デーに向けて、男女共同参画にかかわる取り組みの紹介や、どんな川崎にしていきたいか、その想いをメッセージにして寄せていただきました。

国際女性デーってなに？

国際女性デーの起源には諸説ありますが、20世紀初頭に北米やヨーロッパで起こった女性の労働運動や参政権運動にその起源があると言われています。女性の地位向上を目指して設けられた1975年の国際婦人年には国連が3月8日を「国際女性デー」（当時は国際婦人デー）と定めることが提唱され、1977年の国連総会で議決されました。

カラカサンは、女性移住者と子供達を支援する NGO 団体です。発足から 20 年が過ぎ、移住女性達の子供、孫世代が成長するまでの移り変わりを経験してきました。

多くの女性達が子育てを終え、自分自身の将来を見据える年齢になりました。家族の住む自国へ帰る人も、老後を日本で暮らしたいと考える人もいます。どちらの方であっても、困難の中家族や友人と助け合い、自分の力を育んできました。

今はその力を地域社会でも発揮し、次世代へ継承する時期に入りました。私達は女性達の持つ力と共に、多文化共生のもと安全・安心な社会を実現するため活動していきます。

message



カラカサン～移住女性のための
エンパワメントセンター～

参考) 伊藤セツ「増補版 国際女性デーは大河のように」(2019年、御茶の水書房)
内閣府男女共同参画局「国際女性の日」(https://www.gender.go.jp/international/int_un_kaigi/int_iwd/index.html)
UN Women 日本事務所「国際女性デー 2023 ジェンダー平等のためのイノベーションとテクノロジー」
(<https://japan.unwomen.org/ja/stories/ozhirase/2023/01/guojinuxingte2023-shientapingdengnotamenoinoheshiyontotekunoroshi>)

message

川崎市消防局では、昭和44年に全国で初めて女性消防吏員を12名採用して以来、平成11年に救急隊員、平成14年に指令センター勤務員、平成18年に消防隊員、平成28年には特別救助隊員がそれぞれ誕生し、様々な災害の現場で活躍する女性が少しずつ増えてきております。

さらに、職位においても、令和3年4月に初の女性消防署長が誕生するなど、「男性の職場」というイメージが強い消防局ではありますが、女性た

ちの活躍の場は着実に広がっており、さらなる男女共同参画の実現に向けて取り組んでいます。



川崎市消防局

message

私たちは「地域の女性が活躍するためには、次世代を担う子どもたちを大事にして、ダイバーシティの観点もち、地域の女性等が活躍できる環境づくりを推進すること」を目指しています。

人は誰でも様々な背景や環境のもとで生きています。そんな中でも、1人1人が夢をもち、ステージに応じたキャリアを選択できる環境づくりをすすめます。そして、地域の女性を柱に、障がい者・若者等、地域の多様な誰もが自

分らしく活躍し、「この地域、川崎で働きたい！働き続けたい！」という意欲の醸成から、個及び企業の発展につなげていきます。



一般社団法人川崎中原工場協会

地域女性活躍・障がい者等雇用推進委員会
委員長 高橋 陽子(ダンウェイ㈱) 代表取締役社長)

message

国連が国際女性デーを定めてから48年、女子差別撤廃条約が発効してから42年経ちます。

「平和学」という学問的領域では、戦争だけでなく、環境問題や貧困、差別など、人の尊厳ある生を損なうあらゆる人為的な行為や社会の構造を「暴力による非平和」と位置付けており、女性という属性がこれまで経験してきた不公正や差別も、現在に至るまで、克服されていない大きな非平和です。どうしたら、この大きな非平和を平和に転換できるのか、社会に暮らす私たち一人ひとりの知恵が必要とされています。



てらおか りょうぞう
暉峻 僚三

川崎市平和館 専門調査員、
中央大学・駒沢大学・神奈川大学 講師(平和学)

message

私たちは、全国で唯一の市町村レベルの看護協会として活動方針の一つに「地域とつながり看護の力を発揮していく」ことを掲げておりまして、すくらむ21との連携では、令和4年度から「お月さまカフェ」に参加される方の健康支援で協力させていただいています。

現在、就労している看護職の9割以上が女性であることや、看護や介護が女性の仕事とされてきた歴史を考えると、看護とジェンダー平等の課題は無関係でないことを、国際

女性デーを機に改めて思います。

看護師がいきいきと働き続けられる環境づくりを進めるとともに、全ての命が輝ける社会づくりに貢献したいと考えています。

川崎市看護協会



message

昨年10月、すくらむ21の主催する理系女子(リケジョ)の進路セミナーに参加し、弊社ちとせ研究所で推進する微細藻類の研究内容をメインに講演させてもらいました。私がちとせ研究所へ転職しようと思ったきっかけの一つは、代表を女性が務めていることをはじめ、長く在籍しているリケジョ社員が多いところでした。こうした社風からか、普段ジェンダーギャップを意識することは少ないと感じています。女性だからと抑制したり、された

りすることのない社会の実現に向けて、川崎市の会社また個人として、すくらむ21の男女共同参画の取り組みに引き続き貢献していければと思っております。

ちとせ研究所 Tech & Biz Development Div.
平野さやか (Researcher)



message

自分の思いに素直に生きる、今より少し前に進む。たとえ些細なことでも、実現できれば、毎日が楽しくなります。楽しいと感じる日々が増えれば、人は輝きます。輝く人がたくさんいれば、世界は明るく楽しくなります。だから「あなたが」輝く未来をつくりましょう！

女性と女兒の生活を向上させるために、国際ソロプチミスト川崎は、活動しています。

夢プログラムや奨学金などで、あなたの夢をバックアップします。

国際ソロプチミスト川崎



message

我々が所属する建設コンサルタント業界で働く女性はだいぶ増えてきましたが、まだまだ少ないのが現状です。社会インフラを支える建設コンサルタントが、いろんな視点を持ち社会に関与していくことで、よりよい社会を作っていくことができると思っています。川崎市だけでなく、全国の女性や女の子達

がやりたいことをやれる世の中になるよう、皆さんぜひ一緒に頑張っていきましょう！！

日本ミクニヤ株式会社 東京支店
上園、森田、大月



message

女性のからだを守りたい、そんな思いで活動している女性理学療法士の団体です。主に産後女性の体ケアを通して、生涯にわたって健康で過ごせるように啓発活動をしています。

妊娠出産で変化した体を早期に回復させ、健康を取り戻すことで子育てや社会復帰がスムーズにできると考えます。

「さんごのからだプロジェクト」では体力チェックを通して、産後女性の体力の現状を明らかにする取り組みもしています。(2023年度運動器の健康・日本賞を受賞しました)



Women's Body Labo
代表 山崎 愛美
杉山 さおり

関連書籍の紹介



『時代をきりひらいた日本の女たち』
2021年8月発行
(著)小杉みのり
(イラスト)朝野ペコ
(監修)落合恵子
(出版社)岩崎書店



『世界を変えた10人の女性科学者』
2021年8月発行
(著)キャサリン・ホイットロック
ロードリ・エバンス
(翻訳)伊藤伸子
(出版社)化学同人



『女の子がいる場所は』
2022年6月発行
(著)やまじえびね
(出版社)KADOKAWA

すくらむ21で読めます&借りられます～4階・情報提供室のご案内～

- 開室時間 9:00～21:30(貸出は19:00まで)
- 貸出方法 ご希望の書籍を持って、1階窓口までお越しください。
※お名前、ご住所を確認できる書類(保険証、運転免許証、学生証等)をご提示ください。
毎月の新着図書や絵本・児童書は、1階・第一交流室に展示しています。ぜひご利用ください。

男女共同参画かわさきフォーラムを開催しました

2023年2月4日(土)に「男女共同参画かわさきフォーラム」をすくらむ 21 ホールで開催しました。全国女性会館協議会第 66 回全国大会 in かわさきのプログラムとしても位置づけての開催でした。基調講演には信田さよ子さんを招き、「家族からはじめるジェンダー平等—カウンセリングの現場から—」をテーマにお話をいただきました。

信田さんは、1970 年代から女性のアルコール依存症や摂食障害、性暴力被害など、当時取り上げられることの少なかった問題で悩む方たちを対象にカウンセリングに取り組んでこられました。1995 年に信田さんが開設した原宿カウンセリングセンターに寄せられる相談の多くは、夫婦や親子など「家族」に関連しているといいます。家族は建前上は対等とされていますが本当にそうだろうか、と信田さんは問いかけます。親子はもとより、夫婦の間には経済力など力の格差があります。それまで「ないこと」にされていた家族のなかの暴力に対応するために、2001 年に DV 防止法が施行された意義は大きいものの、「禁止」ではなく「防止」であることの不十分さを信田さんは指摘します。

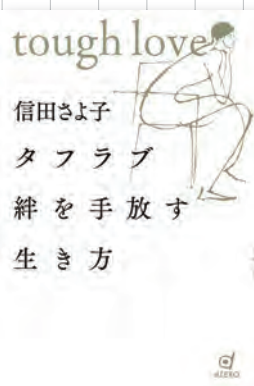
信田さんは家族のなかで距離を維持することが安全につながると言います。コロナ禍で三密回避が喧伝されるなかで家族は例外とされた結果は、DV 件数の増加と



いう形で現れました。「私は」と話すことで「あなた」が生まれ、「私」と「あなた」の間に境界を作ることができます。家族における力関係を知る事が、社会のジェンダー平等につながっていきます。そのためにも、足元の家族というものを自分の目で確かめ、自分の感覚を信じて生きてほしいと信田さんからのメッセージがありました。

基調講演について「信田さんへ、次世代から—」と題して、ウェブメディア「パレットーク」の副編集長で、すくらむコラムのライターでもある伊藤まりさんと信田さんの対談・質疑応答を行いました。これからの家族のかたち、対等なパートナーシップについてなど伊藤さんからの率直な不安や疑問、そして会場からの質問に、信田さんから鋭くもあたたかい回答がありました。

関連書籍の紹介



『タフラブ 絆を手放す生き方』
2022年9月発行
(著)信田さよ子
(出版社)dZERO

信田さよ子さん



『あの時も「こうあるべき」がしんどかった』
2021年11月発行
(著/文)パレットーク
(イラスト)ケイカ
(出版社)シンコーミュージック・エンタテイメント

伊藤まりさん



「困難な状況にある女性への支援物資の募集」に関するご報告

長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、収入減少や生活困窮、DV（ドメスティック・バイオレンス）被害の増加など女性を取り巻く困難な状況が長期化しています。昨年度すくらむ21で実施した「非正規シングル女性のコロナ禍での影響調査」の結果からもコロナ禍が非正規で働くシングル女性の仕事やこころ、からだに与えた大きな影響が見られました。

すくらむ21では、「女性に対する暴力をなくす運動」（11月12日～25日）にあわせ、11月12日(土)から12月9日(金)まで、困難な状況にある女性の自立に向けた一助として、市内の団体・事業者に支援物資募集を行いました。今年度は、12団体から、支援品2,351点（段ボール91箱）のご支援をいただきました（支援金を活用して購入した品物も支援品数に含む）。支援品は、緊急避難施設（シェルター）や自立支援施設を経由してDV被害者など経済的に困難な状況にある女性や子どもたちへ提供したほか、センターの事業を通じて必要としている女性たちへ配布しました。また今年は、昨年の調査結果を踏まえて、経済的に困窮している非正規シングル女性を支援対象に加えました。団体の皆様には心温まるご支援を頂戴しましたこと、心より御礼申し上げます。



女性活躍を推進している市内企業

「かわさき☆えるぼし」認証企業が100社を突破しました！

川崎市では、女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスを推進するため、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる中小企業を「かわさき☆えるぼし」認証企業として認証し支援しています。今年度は65社を認証し昨年度の認証企業と合わせて、109社が認証企業となり、女性活躍推進の取組が広まりつつあります。

更新企業や昨年度認証企業を含めた「認証企業 109社の一覧」は、

川崎市ホームページを御覧ください。

<https://www.city.kawasaki.jp/250/page/0000123776.html>

認証企業一覧
QRコード



令和5年度も認証企業を募集します！皆さまも認証企業に仲間入りしてみませんか？

①対象 常時雇用従業員の数が300人以下で、川崎市内に事業所又は事務所を有する企業等

②認証期間 3年間

③認証取得によるメリット

- ・認証マークを名刺や企業ホームページ等で使用できるなど、「かわさき☆えるぼし」認証企業であることのPR
- ・川崎市ホームページ等での取組紹介
- ・人材確保支援(就職説明会等の情報を積極的に提供)
- ・公共調達の入札等において利用する主観評価項目点の付与



かわさき☆えるぼし認証
15秒CM

事例集で企業のPRも！
(令和5年2月末発行)

【問合せ】 川崎市市民文化局人権・男女共同参画室
TEL:044-200-2300 FAX:044-200-3914

かわさき☆えるぼし

検索

女性の視点で考える防災の知恵袋

23

「しゃべらない」のは「意見がない」からでしょうか？

最近の防災講座では、講師の話聞くだけでなく、班に分かれて意見交換をしたり机上訓練を行ったりすることが多くなってきました。参加者を1班4～5人に分けると、どうしても1班に1人女性がいるかどうか、という状況になります。ぜひ「いろんな意見を言っていただきたい!」と思うのですが、ふと聞き耳を立てていると、少数派の女性の声はあまり聞こえません。男性の皆さんが元気に意見や知識を話していると、残念なことにますます女性の皆さんの口は貝のように閉じていきます…。

「〇〇さん、どう思われましたか?よかったら、教えてください」とお声掛けしても、「いいえ、私は特に。」と微笑みながら返されることがよくあります。「男性の方々がたくさん議論されているから、私なんか知識もないし、いいのよ」と言われたこともあります。どうしたら女性の皆さんの意見を聞かせてもらえるかしら?とずっと悩んでいました。

ある時、「女性だけの防災講座をやってみませんか」とアイデアをいただき、すくらむ21で女性の視点で考える防災講座を実施しました。参加者は全員女性、少しでも女性に特化した話題を多くしましたが、ほぼ普段と変わらない防災講座を企画し、みなさんで意見交換をしていただきました。意見交換では、最初こそ静かだったものの途中からは大盛り上がり!みなさん、それぞれのご経験からいろんな意見やアイデアを交わしてくださって、「確かに!そんなこともあるよね」「そうなの?知らなかったわ～」ととても楽しい時間が過ぎていきました。



講座が終わってから、「防災講座でこんなにしゃべったのは初めて!」と声をかけてくださった方もいて、やってよかったなと思いました。同時に、普段はやはりあまりしゃべらないようにされていたんだなと感じました。地域で行う防災講座では、ご近所の目もあったりして、なかなか本音を言いにくい部分もあると思います。しゃべらないことは意見がないということではないのです。

すくらむ21と企画する防災講座では、なるべく参加された全員にお話しいただけるように工夫しています。地域にはいろんな方がいますので、いろんな人の考えを知ってもらうとともに、普段からいろんな人と知り合っておくことで災害時の助け合いにつなげるためです。みなさんも一緒に、おしゃべりしながら防災について考える時間を楽しんでみませんか。

建設コンサルタント(日本ミクニヤ株式会社)勤務
(一社)福祉防災コミュニティ協会 事務局兼務

防災士 上園 智美

実話に基づくストーリーでLGBTQ+やフェミニズムについて分かりやすく紹介している『パレットーク』の副編集長である伊藤まりさんより、若い世代は何に関心があって何を考えているのか、若い世代のおひとりとして、コラムにて届けていただきます。

女性の趣味と男性の趣味、 そんな括り無意味じゃない？



最近私は、編み物にハマっています。もともと小さいときから編み物だけでなく手芸全般が大好きだったのですが、近頃は仕事以外の時間はすべて編み物に費やすほどに熱中しています。好きな映画を流しながら、ひたすら編み目を数えて作品を仕上げていく過程は一種の瞑想のような効果があり、日常のストレスを忘れられる最高のリフレッシュとなっています。

しかし、こうした編み物のように "いわゆる女性の趣味" とされるものにハマると、めんどくさい場面も出てくることがあります。それは、「意外と女の子っぽいんだね」「いいお母さんになりそう」などの言葉を投げかけられること。編み物以外に、料理やお菓子作りなどを趣味とする女性も、きっと何度も経験しているのではないのでしょうか。私が編み物が好きなのは、女の子だからでもなく、いいお母さんになるためでもなく、ただ私が好きだからなのにな。そんなふうにいつも感じています。

一方で、"いわゆる男性の趣味" とされるものにハマった場合にも、めんどくさい場面が生まれます。たとえば、数年前に引っ越しをした私はしばらく、家具作りのDIYにハマっていました。小さなアパートでできることには限界がありますが、電動ドリルやノコギリ、木材やハンマーなどを少しずつそろえて、YouTubeの動画などを参考にしながら家の中を快適にするためDIYに勤しんでいました。

そんな中でも、参考にしたいYouTube動画やウェブ

記事で「女性でもできる」「女性でも使える」という謎のジェンダー励ましがあったり、「DIY女子」とわざわざジェンダー括りがあったり、多くのノイズにぶつかったことを思い出します。なぜか女性ができることは低く見積もられているのも癪に触るし、いちいち「女子」とジェンダー括りをされないと参入できない趣味の領域があることにも、うんざりします。

これはきっと、男性ジェンダーとして生きている人もコインの裏返して体験するモヤモヤがあるかもしれません。お菓子作りや手芸など、いわゆる「女性の趣味」にハマる男性は「男のくせに」「女みたい(という悪口)」と肩身を狭い思いをしているかもしれません。

「どんな趣味と出会やすいか」には当然、ジェンダー間での違いがあると思います。私が手芸を小さいころに始めたのも、それを周りの大人がとくに問題視せずにサポートしてくれたのも、私が女の子だったからでしょう。しかし実際「どんな趣味にハマるか」はジェンダーで括ることはできません。編み物が好きな男性も、SNSを見ればたくさんいることがわかります。

幸い、私が日常で付き合う人々は私のことを「とにかくなんでも自分で作りたがる"人"」という人間レベルの解像度で見てください。「女性だから／男性だから」という無意味な括りをやめて、「私が好きなこと／あなたが好きなこと」に思う存分ハマれる社会になればいいのになと、今日も編み物をしながら考えています。



伊藤まり（パレットーク副編集長）

1993年東京生まれ。早稲田大学卒業。編集ライター。大学在学中よりフェミニズム活動に参加し、署名活動やパフォーマンス、レクチャーなどを行う。ウェブメディア「パレットーク」副編集長をつとめる傍ら、ジェンダーやフェミニズムに関しての執筆や講演を行う。





BOOKS

『女たちのシベリア抑留』



2019年12月発行
(著)小柳ちひろ
(出版社)文藝春秋

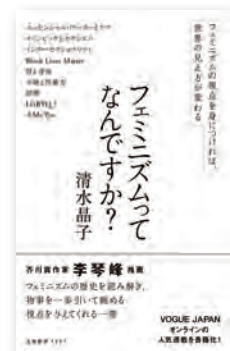
「シベリアに女の人もいたんですか?」「いや、シベリアに女はいないはずですよ」。これはかつてソ連に抑留されていた元兵士たちの反応である。この本のタイトルを見て、同じように驚いた人もいるかもしれない。しかし実際には、ソ連各地に抑留されていた57万以上の人々の中に数百人の女性たちがいたと言われている。

本書に登場する多くは満州へ渡った従軍看護婦たちだ。ソ連侵攻によって一変した生活は、常に死と隣り合わせ。武器を持って戦場で戦うことだけが戦争ではないことを知る。ある一人は、自身の身を守りながら逃げ続ける事を「これが戦争なんだ」と実感する。そ

の後、彼女たちは連行され、ソ連各地に抑留された。その日々の様子、異国の地での看護、帰国までの出来事が女性の苦悩や悲しみと共に記されている。

戦争中の女性たちは、農場や工場、運輸通信などに従事し、銃後の生活を守ってきた。記録としての映像や文章、女性画家達によって描き残された大きな絵画もある。しかし、シベリア抑留に関しては詳しい記述がない。筆舌に尽くし難い壮絶な体験は形に残されない限り、ひっそりと消失していく。勇気をもって語り、時を経てようやく明らかにされた「歴史から消された女性達」を知る事が出来る一冊。

『フェミニズムってなんですか?』



2022年5月発行
(著)清水晶子
(出版社)文藝春秋

少し前に比べると、メディアなどで「フェミニズム」という言葉に触れる機会が増え、社会に浸透してきた感がある。では、あなたは「フェミニズムってなんですか?」と問われてうまく答えられますか?本書を読了すれば、きっと現時点のあなたの答えが見つかるはず。「女性たちの生の可能性の拡大を求める思想や営み」であるフェミニズムを理解しようとするときに重要な問いは、フェミニズムが「何であるのか」より、「何をするか」だと著者は言う。本書は、19世紀末から現代に至るまでの運動に象徴されるフェミニズムの4つの波、その歴史に向けられた批判や異論、現在の論点、それらを理解するのに欠かせないインターセクショナルな視点(「人種やジェンダーだけでなく、階級、セクシュアリティ

などをめぐる複数の抑圧が互いに交差して差別構造を形作っている」とする考え方)まで丁寧に綴られている。フェミニストの間で意見の分かれる問題、例えば「中絶」や「セックスワーク」をどう捉えるかの語りは、あなた自身が自分のフェミニズムと向き合う時間になるだろう。

写真家の長島有里枝さん、スポーツとジェンダーの研究者である井谷聡子さん、作家の李琴峰さんとの対談を通して、著者が三者三様少しずつ異なるフェミニズムに触れ、その輪郭を確認しなおす作業には、フェミニズムの考え方はそれぞれ違っていてもいい、という著者の視点が詰まっている。

『みんなみんなすてきなからだ』



2021年12月発行
(著/文)タイラー・フェーダー
(翻訳)すぎもとえみ
(出版社)汐文社

わたしのからだ、あなたのからだ、それぞれ ちがう みんなのからだ! 体型、肌の色、髪質、目や鼻の形、体の毛の生えかた、みんな人それぞれ。ページをめくるたびに飛びこんでくるのは色鮮やかなイラストたち。パーティをしたり、アートを楽しんだり、海水浴にでかけたり、思い思いに過ごすその姿がどのページでも生き生きと描かれていて、なにより楽しそう。

この絵本を読んだとき、ありのままの姿を思いっきり描いていて素敵と思った。ところが、小学生の子どもは「この中に出てきたイラストは、いつも見るテレビの漫画とか絵本に出てくるとゼーんぜんちがう」と言って不思議そうにしている。「理想のからだ」として描き出される人物は手足がしゅっと長くてや

らとくびれている?!。その比較で語られる「じぶんのからだ」。肌の露出が増えてくる季節やイベントシーズンに合わせて増えてくるメディアによる「美」への過剰広告。そういうものを日々目にしているからか、描かれないものが存在することに気づかず、刷り込まれているのか。繰り返してでくる「どれもみんなすてきなからだ」という力強いメッセージは、描かれている人々の絵とマッチしてとても味がある。自分のからだに自信を持ち、楽しく生きるためのメッセージ。じぶんがどんなからだかはじぶんのことばでいえばいい。それを難しくしている社会に対して問いかけている絵本でもある。だからこそ、いろんな世代の人に手にとってほしい一冊。



パパと、楽しい子育て

5歳の長女と2歳の次女、妻と暮らすDパパです。パパの育児参画と家事育児の分担について考えてきましたが、先日未婚の友人から「分担分担で、じゃあ結婚して子どもができるって大変なだけじゃないか」ときかれまして。いけませんね。パパ業がパパにとってしんどい話ばかりなのもいかなものか。「分担」というと、なんだか負担を押し付けられる気がするというパパ、少なくないのではないのでしょうか。家事や育児って「負担」なだけなのか。本日は子育ての楽しい部分について、我が家の食事作り担当として考えてみたいと思います。

先日、長女が15分程で夕食を食べ終わりました。「で？」ってなりますよね。説明します。長女、離乳食が始まって以来はそれはもう胸のすくような快食ぶりでした。通い始めた保育園の昼食も毎日「完食。おかわり完食」。それがどうしたとか、3歳頃から徐々に食が細くなり、進みも悪くなっていきました。放っておけばご飯の前で40分ぐずぐずなんてことも。こちらも言いたくないながら「早く食べなさい」とつい声がかつくなります。本人だって楽しくないでしょう。味付けか、食感か、いや大ききなのかも。彼女自身が料理を手伝ったら前向きに食べるのか、とチャレンジさせたことも。これならどうだ、といろいろ試行錯誤しては沈没する日々。もう栄養バランスもなにも考えず、とことんまで食べやすさを追求してみようと思き直ってみたところ、その日、さらっと短時間で食べきってくれたのです。思わず妻とハイタッチ。久しぶりに心置きなく「さあ、お風呂までなににして遊ぼうか」が言えました。長女も「食べられたよ」とあっさりながら感想をくれました。

この話、「パパが頑張ったから結果につながった」だったら美談で最高なのですが、落ちがあり、その日たまたま朝から機嫌がよく、お昼寝もしっかりとれて夕方まで

元気いっぱいだったからという線が濃いようでした。別の日に同じもの作っても進みが悪かったですから。そんなものです。

でも、もしすべて理想通りになっていたら、飽き性なDパパのこと、多分すぐに飽きています。ゲームも仕事も、思い通りにならないからこそ熱中できる側面ありますよね。同じように、たまたま廻り合わせでパパになることができ、ミッションの連続と、ママという分かち合う仲間もいるのです。楽しまない手はありません。思い通りになくて、大変で、でも楽しくて。それを味わうための負担だったら、引き受けてもいいかなと思うわけです。

こういうのをパパスイッチと言うようです。パパスイッチはパパの背中にあらず、パパの目の前にあり。入れたが最後、ノンストップ。新しい世界への扉のスイッチです。笑いあり涙あり最高のリアリティ・エンタテインメントになること請け合いです。



“イキメン”とは、「家庭でも地域でもイキイキと過ごすパパ」のこと。

すくらむ21では、男性を対象とした事業を「イキメン研究所」として、男性が地域に目を向ける契機（第一子誕生）ととらえて事業を行っています。2013（平成25）年度発足して9年目を迎えます。



◀ イキメン研究所の
活動紹介は
こちらから



◀ 女性の視点でつくるかわさき防災
プロジェクト（通称：JKB）との
コラボ企画はこちら

イキメン
メンバー
募集中



2023年度

すくらむ21プチマルシェ出店者募集

自分で作ったものを販売し、お客様の反応を直接確かめてみたい、他の女性起業家さんとの協業のチャンスを探したいなど、実践の場として月1回の定期販売でPRしてみませんか。

募集内容：手作り品の販売・調理品（加熱したもの、衛生許可が下りたもののみの販売等

応募資格：①女性起業家及び起業準備中の市内在住・在勤の女性

②手づくりの作品販売や地域で活躍できる場を求める市内在住・在勤の女性

応募締切：2023年3月31日（金）（メール提出、直接持参ともに17時必着）

応募方法：応募用紙に必要事項を記載し、メール添付・郵送・直接窓口持参のいずれか。

書類選考の上、出店者を決定します（4月末頃を予定）。



第19回すくらむ21まつり 開催のお知らせ

6/25 日 10:00~17:00

すくらむ21では、毎年6月の川崎市男女平等推進週間に合わせて、
すくらむ21まつりを開催しています。

音楽・合唱・演劇・ダンス・パフォーマンスなど、日ごろの練習や活動の成果を発表するホールステージや、すくらむ21の研修室などを会場にした「パソコンを利用した企画」「健康に関する企画」「親子で楽しめる企画」を実施します。

また、おまつり当日は、定期開催でおなじみの「すくらむ21プチマルシェ」の出店メンバーによる飲食・物販の販売でも賑わう予定です！

詳細はすくらむ21ホームページやSNSで随時お知らせしていきます。お楽しみに！



かわさきの男女共同参画情報誌

すくらむ

発行年月
編集・発行
所在地

ホームページ
電話
FAX

令和5(2023)年3月
川崎市男女共同参画センター（すくらむ21）
〒213-0001
川崎市高津区溝口2丁目20番1号
<https://www.scrum21.or.jp/>
044-813-0808
044-813-0864



植物油インキ（植物油、または植物油を原料としたエステルを一定の割合以上含まれたインキ（インク））を使用しています。